

校長講話(防災・減災について)

- 明日、1月17日は、皆さんも知っていると思いますが 29年前(1995年)に兵庫県南部を中心発生した『阪神・淡路大震災』が発生した日です。今日あたりからは、能登半島大地震のこともあり、ニュース番組等で多く取り上げられると思います。
- 今までにも阪神高速道路が倒れ、多くの家屋が倒壊し火災が発生して焼野原のようになった映像を見た人も多いと思います。
- この阪神淡路大震災では、約6,400人以上の方が犠牲となりました。始業式でもお話をしましたが、5時46分という早朝の時間帯で、まだ寝ている人も多かったため、家具などの下敷きになつて亡くなられた方も多くいたようです。
- 社会科の歴史などで習って知っている人もいると思いますが、約100年前の1923年9月1日11時58分に『関東大震災』が発生し、死者・行方不明者は、推定10万5,000人と言われています。
- 近年では、13年前の2011年3月11日に『東日本大震災』が発生し、約2万2,000人の方々が犠牲となりました。
- この100年の間で、死者・行方不明者が1,000人を超える大地震は、日本で10回発生していますが、多くは1900年代前半であり、戦前・戦後の混乱の中、建物の強度も弱く、防災の知識なども十分に周知できていなかつたことが原因と考えられます。
- しかし、日本も豊かになり、建物の耐震基準も厳しくなつた中で、阪神淡路大震災のようになつた想定をはるかに超える大地震が発生したことを教訓とし、
- いつ『南海トラフ巨大地震』が発生してもおかしくないことを十分に理解しておく必要があります。
- 若い皆さん生きている間に大地震が発生する可能性は非常に高く、確率も上がっています。被害は出ると思いますが、被害を最小限に減らすことはできるはず(減災)です。
- 1月26日には、学年ごとで『防災教室』が開かれます。このような機会に、防災の知識をさらに身に付けていくことと、家族でも十分に話し合っておくことはとても大切なことだと思っていま